

くにコラStory 活動報告書

# あなたのまち活



## 応援します!



した。



くにたち地域コラボ

SINCE 2013-2026



# くにたち地域コラボの歩み



くにコラの歴史  
がココに!



(プラムジャム通信) 創刊号



**START!**  
国立市役所  
政策推進室(当時)の呼びかけで  
「第1回NPO等情報連絡会」

2001年 7月

第1回くにたちNPO・市民交流会

2002年 9月

第2回くにたちNPO・市民交流会

2003年 11月

富士見台団地に  
「くにたちNPO活動支援室」オープン  
(運営:くにたちNPO活動支援室協議会)

2004年 4月

子どもの居場所  
「駄菓子や・くにちゃん」オープン  
(毎週土曜午後) P.5

2006年 4月

2006年 10月

「NPO等と国立市による協働推進の指針」  
策定 P.4

2008年 4月

2009年 3月

「NPO活動への理解と寄付文化の醸成」  
(東京都新しい公共支援事業) 受託

NPO強化支援事業

「市民のための防災学校」  
開催

富士見台  
まちかどごぜん塾  
スタート P.11

2014年 9月

学習支援が「子どもの未来応援基金」事業に  
採択される P.12

2016年 11月

『子ども・わかものくにベディア』  
(公民館・NHK学園高等学校共催) P.3

2018年 4月

プラムジャムの看板が完成 P.4

2019年 4月

新型コロナウイルス感染対策により  
プラムジャム利用自粛要請

2020年 4月

市民団体  
つながり創出事業スタート/  
一般会員の会費が無料に

2022年 4月

「国立市市民活動調査報告書」  
発行(国立市) P.8

2024年 3月

くにたち市民コラボフェスタ開催  
@矢川プラス P.9

2024年 9月

デフフェス@矢川プラス支援

2025年 11月

くにたち地域コラボ解散

2026年 3月



1998年に誕生したNPO法により、  
新しい公共の担い手としてNPOが目されるなか、国立市では  
2004年4月、富士見台に「くにたちNPO活動支援室」が設置された。市役所により  
80万円の事業委託費が初めて予算化されたのは2006年「協働推進の指針」策定後。  
2013年には支援室は「プラムジャム」と名前を変えて、くにたち地域コラボ(くにコラ)が運営を引き継ぐことになった。  
『プラムジャム通信』の創刊や、午前中のドアを開けて商店街にも歓迎された「富士見台ごぜん塾」、  
毎年の研修や助成金獲得支援などなど、中間支援とは何ができるのかと試みを続けてきた。  
2024年には念願の市内の『市民活動調査報告書』をとりまとめ、同年秋の「くにたち市民コラボフェスタ」は  
行政との初の大型協働事業となった。  
当初掲げた目標を一定程度果たしたということもあり、2026年3月でくにコラは解散する。





# プラムジャムのはじまり (地域活動支援室)

UR富士見台第一団地1号棟1階102号室

2013年、くにコラの活動は市民活動支援の拠点につけた愛称を広めることから始まった。

国立市からの事業委託をもとに手掛ける事業は

「市民活動に関する情報提供」「学習」「研修」「交流」などなど。

目標は商店街の一角にある立地を活かし、知名度を上げて多世代・多様な市民に親んでもらう、

会員を増やして互いにつながる、市民活動を応援するために広報に力を入れる……。

予算は極端に少ないけれど、運営を引き受けた役員たちにはやりたいことはたくさんあった。



事務局は、月・火・木・金(当初は土曜日も)オープン 13時～17時

事務局オープン以外の時間帯(土日祝日含む)はコミュニティスペースとして、会員に貸し出し。(1時間@250円)



### 名前の由来

国立市の花である梅(プラム)+ジャムセッション(即興演奏)から。

利用者同士がこの場所で出会い、自由にコラボして新しい展開につながることを目指した。木製の看板は、並びにあるKFクミタテ(モノづくり工房)に依頼。



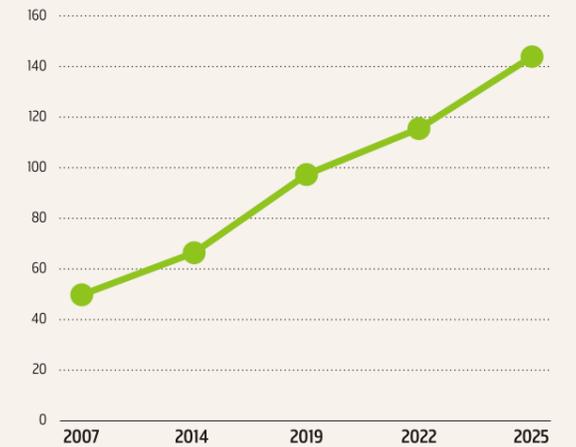
## 数字で見ると…

### 事業費の流れ



2022年「市民団体つながり創出事業」国立市  
↓  
国立市社会福祉協議会からの事業委託

### 登録会員数(団体・個人)



### プラムジャムの場所



プラムジャムは、UR富士見台第一団地1号棟、むっさ商店街のなかにある。谷保駅からも近く、とても便利な場所だ。50数年前に建てられた団地は、当初入居希望者の倍率が300倍超え、周辺の商店街には朝から晩まで人が群がり、一気に人口が増えた国立は、昭和42年(1967年)町から市になった。やがて時代は移りいつしか住民の高齢化で空き店舗が増えてしまったが、2003年に「大学と地域のまちづくり」を掲げるNPOが商店街に誕生する。

「NPO法人くにたち富士見台人間環境キーステーション(略称KF)」。一橋大学や津田塾大学の学生たちが商店街に出没するようになり、今ではプラムジャム隣接のカフェや物産店、まちかどホールなどの5店舗はすべて、学生が市民と協力して担う。

学生たちは四季折々のイベント開催には不可欠で、ときにはプラムジャム通信の取材記者も引き受けてくれた。若者が頻繁に出入りする商店街は、たぶん地域の安全にも貢献しているはずだ。

### 駄菓子や「くにちゃん」(一般社団法人リング・リンクくにたち)

毎週土曜日、午後1時～午後4時、プラムジャムに子どもたちが集まってくる。駄菓子は買っても買わなくても、部屋での遊びはすべて無料!

部屋にはアイロンビーズ、人気のボードゲーム、けん玉、パズル等々、たくさんの遊びが用意され、好きなもので好きなだけ遊ぶことができる。ここでは学校、学年、国籍などの垣根はなく、地域の大人や大学生とのおしゃべりも楽しい。開店以来20年、“卒業生”も多く今でも時々遊びに来る。2025年は矢川プラスにも出張した。



種類も豊富な上、品数も多くたちまち行列ができるほどの賑わい



海外の子どもたちも興味津々



# くにくらが目指したもの

その1



NPOを当たり前にする、そのために力を入れたのは広報を強化すること。市民活動団体を取材し、どんな人たちがどんな夢を描いて地域で活動しているのか。この小さなまちにたくさんの市民活動団体が生まれていること、活躍していることを内外に知ってもらうために。

## 広報誌を創刊

### 広報紙『プラムジャム通信』

- 期間：2013年8月～2026年3月(1号～30号)
- 仕様：A4カラー4P／発行部数1000部

会員の活動紹介、くにくらからのお知らせのほか、当初は市の担当職員が国立市の課題を数字から考える、というコラムも掲載していた。市との協働を目指すささやかな試みではあったが、担当職員の異動で消滅。残念。毎号、ライターたち(プロのほか学生も

多数参加)が取材、10年間で紹介した団体数は約80。なかでも「ふじみなヒト×コト」コーナーは、富士見台地区で起こることや新たな活動の展開にフォーカス。このコーナーで取材した団体がその後、会員になる、という流れもできた。



22号/表紙

23号/表紙

26号/表紙

26号/表紙&表4

26号/中面

23号/中面



取材ではたくさんのお話を伺いました。誌面スペースの関係で泣く泣くカットすることもしばしばありましたが、皆さまありがとうございました！ 誌面デザインも複数のデザイナーの方に参加いただき、改めて感謝です！

## 手作り掲示板!



前任の支援室から引き継いだ木製の手作り掲示板。ラックは途中で買い替えたが、こちらはそのまま利用させてもらう。会員のイベント広報チラシ、公民館などの催し、近隣市のお役立ちイベントなど随時、張り替えた。商店街に買い物に来る人が通りがかりに気軽に立ち止まって読んでいる…その風景が毎日当たり前になった。

# 広報が大事!



## サイトリニューアル

Webサイトは見やすく、わかりやすく

会員からのお知らせを随時受付けて紹介、同時に「Facebook」で拡散。イベントなどの告知に活用してもらった。くにくらからのお知らせ、ごぜん塾の予定、プラムジャムの利用

カレンダーも随時更新、なかでも便利だったのは団体登録会員一覧リストをつくり、それぞれの活動分野を色分けして表示、会員のホームページやSNSにリンクから飛べるようにしたこと。



HP/トップページ

HP/会員一覧

## 紹介パンフレットをつくる

「あなたのまち活応援します!」

- 仕様：A4カラー三つ折り

市民活動支援ってなんだかわからない、という声にお応えして、プラムジャムのパンフも制作。会員になるメリットやお困りごと相談など事業を案内した。



パンフレット A4版三つ折り/表紙&表4

パンフレット/折り返し

パンフレット/中面

# くにコラが目指したもの

その2



当たり前だが人は一人では生きていけない。どんな世代でも環境でも地域で孤立することがないように、誰かにつながる居場所が見つかるようにと、中間支援組織はプランを立て、手をつなぐ相手を探す。  
事業費が増えたのちは、市内の広範囲な活動調査を行い、それが半年後には初めての市民交流会へとつながった。

# つながりが大事!



交流会を  
開催

■2024年9月28日(土曜日)10時~15時  
@くにたち未来共創拠点 矢川プラス  
「くにたち市民コラボフェスタ2024」

くにコラとしては初の大規模なNPOと市民との交流会。国立市とくにたち社協との共催で準備に半年をかけた。講演、展示、動画、体験ブースなどのさまざまな形で参加した団体は21。

9月5日の国立市報トップ面でも広報され、行政と民間の協働実績ともなった。



矢川プラス/ホール内

A4パンフレット/表紙

## 報告書

### 令和5年度 国立市市民活動調査報告書

●仕様: A4カラー

2022年~2023年 国立市に拠点をおいて活動するNPO法人を中心に主な市民活動団体を取材・調査し、報告書としてまとめることができた。くにコラ登録会員以外にも対象を広げ、まちづくり

から文化、子育て、環境、福祉まで活動分野ごとに合計93団体をピックアップ。データは国立市役所のサイトからダウンロードできる。

(団体の情報は調査当時のもの)



調査報告書/表紙

調査報告書/中面

ダウンロードはコチラ

[https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/material/files/group/45/r5\\_chousahoukokusho93.pdf](https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/material/files/group/45/r5_chousahoukokusho93.pdf) →



## 子ども・わかものくにペディア



八つ折りリーフレット/表紙

八つ折り/裏面

学んで、遊んで、みんなでごはん。困っているときに相談できる場所も見つかる市内の居場所などを楽しく見える化した。(初版発行は2018年、2020年に第2版)  
公民館とNHK学園高等学校が共催した「つながりワークショップ」で出会った参加・関係者とともに制作。地域の43の「居場所」やサポートを掲載し、小中学校で無料配布された。情報は古くなるので第3版が制作されることに期待。

PDFはコチラ → (国立市役所サイト)

<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/soshiki/Dept08/Div05/oshirase/1523259678946.html> →



## マッチング事例

2025年11月30日:デフリンピックが東京で開催された年、ろう者と健聴者の交流を深め、手話が当たり前になる地域を目指す(一社)POCの活動「デフフェス」@矢川プラスで行われた全国初のデフフェスでは、国立市聴覚障害者連盟と二つの地元手話サークルをつなぐなど側面支援。若者らしくSNSを駆使してのフェスは600人が来訪、静かでにぎやかなフェスは内外に大きな実績を残した。

# くにごらが目指したもの

その3

# 学びが大事!



研修事業

毎年、地域の課題や市民活動に役立つさまざまなテーマを取り上げ、市民向けに研修を企画した。テーマを決めるには会員からの相談やプラムジャムに集まる情報を吟味し、時代のニーズを反映できるように内外から講師を招いた。前半は講師の講演、後半は参加者中心にワークショップという構成で、年に1~2回の学びの場は有意義で、さまざまな市民との楽しい出会いの場でもあった。



ごぜん塾

きっかけは2014年春の「暮らしの相談室」。好評だった「PCスマホお困りごと相談」を軸に、午前中のプラムジャムを利用し、さまざまな講師が日替わりで運営するという「ごぜん塾」。参加者にとっては比較的安価で手軽に学べる機会であり、講師にとっては身近な場所で技術を活かせるスモールビジネス支援、そして商店街にとっては午前中閉じていたドアを開けることで商店街がにぎわうという「三方よし」の自主事業となった。

## 研修事業

■ 2013年度～2024年度まで／全15回

### 第9回 ヤングケアラーについて知ろう

(国立市まちの振興課、国立社会福祉協議会共催)

2022年2月6日(日) 講師: 堀越 栄子氏 (日本女子大学名誉教授、日本ケアラー連盟代表理事)  
高岡 里衣氏 (日本ケアラー連盟スピーカーズバンク登録者)

2021年秋に、会員から「国立市はヤングケアラーについて対応する窓口がみあたらない」という相談があり、それをきっかけに市民、社協、行政との協働で企画が進み、初めてのオンラインを含めて71名の参加を得た。第一部は講師の堀越さんから、いわゆる家事手伝いと異なり、多くの時間をきょうだいや親、祖父母の病気や介護、家事などに費や

している子どもたちの実態とその背景が紹介された。また当事者の高岡さんによる9歳からの24年間にわたるケアラー体験では、その辛かった日々とともに家族によりそう気持ちが語られ、初めて知るヤングケアラーの複雑な事情に心揺さぶられた参加者も多かった。第二部では、小グループに分かれて、時間が足りないくらい熱い議論がかわされた。



研修チラシ/A4



第一部/講演会



第二部  
ワークショップ

まずは事実を知ることから、そして地域でできるサポートについて、学校なども情報共有しながら行政とも一緒に考えていく機会になれば願った。



## 講座

### 富士見台まちかど「ごぜん塾」(自主事業)

#### これまでの主な教室内容

2014年9月～12月

- 「シニア向け iPad お買い物教室」
- 「パソコン、スマホ、タブレットお困りごと相談」
- 「キホンのデッサン」
- 「クリスの Practical English」
- 「ウクレレソロをひいてみよう」
- 「ビートルズから学ぶ楽しい英語」

2015年～2026年3月まで

- 「ハンドエステ体験」
- 「編み物基本体験」
- 「子育て力 UP 講座!」
- 「ベビーマッサージ体験」
- 「英会話英語お困りごと」
- 「クリスマスドア飾りづくり」
- 「Saturday Night Music Club」
- 「こどもの心をひらく声かけ講座」
- 「もう一度、イチから始める写真撮影」



ごぜん塾/受講風景



ごぜん塾/カレンダー



ごぜん塾/案内チラシ

- 「ソロバン脳トレ」
- 「オンガク夜話26回」
- 「シニアプログラミング入門講座」
- 「もう一度書道にチャレンジ」
- 「あなただけのオリジナルの本を作る」
- 「はじめてのスペイン語」
- 「楽しく絵手紙」
- 「English Morning」
- 「ロザルバの楽しいイタリア語講座」
- 「ドイツ語レッスン」
- 「ハワイアンリボンレイ」
- 「ミニプラかご作り」
- 「ゆるっと保健室」
- 「暮らしに活かす薬膳体験」

開始当初のイメージは朝のラジオの帯番組でした。曜日ごとにパーソナリティが変わって、同じ時間に毎日様々なことを知ることができる楽しい学びの時間。講師陣が市内外の貸しスペースをキャラバンする構想も個人的にはあったのですが、施設ごとの部屋代の違いがまあまあ大きく実現できず。反省点は講師陣がやや固定化してしまったこと。一定の任期を設けて入れ替えるなどリフレッシュ策が必要だったと今更ながら感じています。



講座開催チラシ

# くにくらが目指したもの

その4



地域の課題を何とかしたいけれど、活動資金が足りない？それでもとにかく走り出すところから、多くの市民活動は始まっている。  
くにくらも外部補助金を利用した事業がいくつかあり、振り返ればそこからヒントや勇気をもらえたり、次のステップが見えてきたり…。お金がなくても当座は頑張れるけど、お金があればさらにたくさんの人を巻き込むことができる。

## 学習支援

■2016年7月～2018年3月

2016年夏前からプラムジャムでスタートした自主事業「わからないところ一緒に勉強しよう」

きっかけは「駄菓子やくにちゃん」のスタッフから、「中学生になっても九九ができない」「経済的に困難で塾にも行かれない」などさまざまな課題を抱える子どもたちがいるという状況を聞いて、地域の学習支援の必要性を痛感したことがあった。予算はなかった

が、おりしも内閣府による「子どもの未来応援基金」第1回未来応援ネットワーク事業の公募があり、事前に日本財団の研修に参加するなど万全を期して申請。全国から応募のあった535件のうち86件に入って採択された。



## こどもの未来応援国民運動

くにくらは事務局となって、(一社)リング・リンクくにくらほか子育て支援団体、NPO法人くにくら富士見台人間環境キーステーション(KF)の大学生たちをつないで実施。毎週月曜日夕方、プラムジャムとUR富士見台団地の集会室において、学生たちが小中高生(毎回約20名)に寄り添い、学習をサポートしてきた。  
つなぎの資金として平成29年度「西武信用金庫の街づくり助成

金」、第2回未来応援ネットワーク事業(2018年4月～2019年3月)に応募してさらに資金を獲得。2019年度からは国立市福祉総務課からの委託事業となり、(一社)リング・リンクくにくらが事業を引き継いだ。子どもたちが学ぶことをあきらめないように、これからも地域での見守りが続いていく。

## 助成金について／相談事例

毎月、その時々助成金情報をピックアップし、会員メーリスでお知らせしてきた。そこから助成金申請にトライした団体もいくつかある。2024年秋には子育て支援団体が「キリン福祉財団の令和7年度公募助成」に応募。以前は他の助成で残念な結果だったが、今回は何回か丁寧に調整した結果、2025年3月無事採択。新事業に取り組んだ。

# お金も大事!



## 検討会

■2023年11月～2024年2月

## ビジョン検討会

ファシリテーター: 米元 洋次 さん (合同会社Active Learners共同代表)

くにくら役員、国立市役所まちの振興課、くにくら社協職員を交えて、これまでの事業を振り返り、中間支援組織としてのミッション、地域にとっての価値、役員スタッフの役割等を問い返すために企画したビジョン検討会を開催。参加メンバーが何を思い、何を感じ、何を望んでいるのかを互いに知り、次世代への事業継承等、くにくらしさを具体的に言語化することを目指した。企画にあたっては予算がないため、東京ボランティア市民活動センターに申請し、中間支援組織強化補助金を活用することができた。



HP/会員一覧

## 研修講座

■2022年12月10日(土)

## 「市民活動とお金の話」

講師: 土屋 一登 氏 (一般社団法人真山舎代表/認定ファンドレイザー)

市民活動におけるお金の考え方、資金源の種類、どのような潜在支援者が存在するのか等、事例を交えて紹介。団体だけでなく個人として、あるいはこれから活動をスタートさせたいなどさまざまな立場の方が参加、ワークショップでも交流を深めた。



グループに分かれてワークショップ



研修チラシ/A4

# 研修講座一覧 2013年度～2024年度

(国立市まちの振興課共催 9回以降は国立市社会福祉協議会も共催)

場所: KFまちかどホール(国立市富士見台1-7-1-101) 講師肩書は当時

- 2013 ① アサーティブネス・トレーニング連続講座「自分も相手も大事にできるといいね」
- 2014 ② 空き家講習会・暮らしのまちかど相談フェア
- 2014 ③ 「目指せ住民ディレクター講座」(連続3回)
- 2016 ④ クラウドファンディング入門講座～ネットで広がる寄付が夢をかなえる
- 2017 ⑤ クラウドファンディング入門講座II
- 2018 ⑥ 地域で生きる、想いとアイデア～一歩踏み出すくにたち会議～
- 2019 ⑦ にぎわいを外から招く!～まちのファンを増やす試み～
- 2020 ⑧ ともにつくる地域 外国/日本ルーツの人々と
- ⑨ ヤングケアラーについて知ろう (初のオンライン参加を取り入れる)
- 2022 ⑩ 情報セキュリティ講座
- ⑪ 市民活動のお金の話
- 2023 ⑫ 情報セキュリティ講座
- 2024 ⑬ 「あなたは大丈夫? 市民活動と著作権」
- 2024 ⑭ 「市民と行政が手を取り合うまちづくり」
- 2025 ⑮ 「国立市に必要な市民活動支援とはなにか」



## ④クラウドファンディング入門講座 ～ネットで広がる寄付が夢をかなえる～

◆2016年1月31日(日)

◆講師 藤原 佳乃氏  
(株式会社まちづくり立川事務局長)  
加藤 健介氏  
(国立本店代表)  
吉澤 裕紀氏  
(あるもんで国立 主宰)

何かの活動を始めたいとき、もし手元に資金がなかったら…。自分たちの活動の目的や願いを知ってもらい、広く寄付を募るクラウドファンディング、その手法の基礎や事例を紹介、ワークショップ。



## ⑦ にぎわいを外から招く! ～まちのファンを増やす試み～

◆2019年2月3日(日)

◆講師 島崎 要子氏  
(くにたち文化スポーツ興財団  
「Play Me,I'm Yours KUNITACHI2018」  
スタッフ)  
◆講師 隈井 裕之氏  
(くにたち・梨園ボランティア)メンバー  
◆講師 小野 淳氏  
(NPO法人くにたち農園の会)理事長  
◆講師 造田 覚氏  
(株式会社グッドライフ多摩)取締役



## ⑫ 情報セキュリティ講座

◆2023年10月14日(日)

@南市民プラザ会議室

◆講師/一部 立川警察署 1名  
立川署管内での被害状況  
◆講師/二部 隈井 裕之氏  
ネット詐欺に合わないためのヒントなど



## ⑭ 市民と行政が手を取り合う まちづくり

◆2024年12月7日(土)

◆講師 吉田 建治氏  
(特定非営利活動法人  
日本NPOセンター 事務局長)



## ⑧ ともにつくる地域 外国/日本ルーツの人々と

◆2020年2月2日(日)

◆講師 是川 夕氏  
(国立社会保障・  
人口問題研究所博士/社会学)

第一部:  
講演会・事例報告  
第二部:  
「ともに暮らすカード」を使った  
ワークショップ



## ⑬ あなたは大丈夫?市民活動と著作権

◆2024年3月2日(土)

◆講師 稲田 亮太氏  
(弁護士/インテアス法律事務所・  
第一東京弁護士会所属)  
◆講師 隈井 裕之氏  
(二級知的財産管理技能士/  
国立せいさく所)



## ⑮ 国立市に必要な市民活動支援 とはなにか

◆2025年3月1日(土)

◆講師 田中 えり子  
(くにたち地域コラボ代表  
編集ライター)  
◆講師 隈井 裕之氏  
(くにたち地域コラボ事務局長  
ICTコンサルタント)



代表をつとめてきましたが、本業は編集ライターで中間支援の専門家ではありません。企画力・事務力・経営力…私が苦手な分野を担い支えてくださったのは役員のみなさん。ご縁につづく感謝しています。市民の声を聴き、課題を発見し、リソースを探して必要な人につなげて伴走する…。みんなできればきっとできる。あとは任せたい!

田中 えり子

2001年の第一回NPO等情報連絡会から参加し、役員として務めてきました。2008年防災学校、さらに2009年内閣府の助成金を得て毎月の防災教室、最後に大きな防災イベントも開催しました。母親から関東大震災の惨状を聞いて育ち地震の再来を確信していたのですが、「地震は来ない」という声が多く、人集めに苦労したことを思い出します。

吉村 多恵子



専門スタッフ不在の中、NPO関係者の尽力で誕生した旧支援室。政治的翻弄や葛藤を乗り越え、支援対象を地域活動全体へと広げ歩んできました。今、運営が民営から公営へと切り替わる転換点を迎えています。市民が築き上げたこれまでの歴史を重んじ、その精神を100%継承した「新しい形」の実現を願っています。

三澤 拓也

役員からの  
ひとこと。  
くにたち地域コラボ、

一つの世代の区切りとともに、くにコラは解散しますが、それは地域活動の終わりを意味するものではありません。地域の課題はますます複雑になり、当事者である市民の関わりなしには、問題に向き合うことすら難しい時代が始まっていると感じています。これからは、より軽やかに、プロジェクトごとに集まり、目的が達成できれば自然に離れていく。自立した個がゆるやかにつながる——そんなリビングラボ型の市民活動を育てていきたいと考えています。そしてそのとき、個人や団体は、それぞれの個性を映したAIエージェントに支えられているでしょう。人は、人にしかできないことに集中する。AIは、伴走者として力を貸す。私はICTプロフェッショナルとして、その利活用もまた支え続けていきます。この地で、さまざまな形で私を育ててくださった皆さんへ。世代を超えて、ここからまた、新しい実験を始めましょう。

隈井 裕之

ハンドケアボランティアがくにたちとご縁の始まりです。代表の宮尾純子とハンド講座を続ける中で、まさかの運営役員のお話があり、「誘われるうちが花ね」えいや!と中間支援の世界へ飛び込みました。くにコラも市民の皆様も私にとって「たのびま」の場所となっていました。これからも皆様の想いを形にする場が続きますように!

藤井 麻由美

くにコラ立ち上げから今日まで関わらせていただき、月日の経つのはホントに早いもので、主にプラムジャム通信やホームページ、パンフレット制作など広報支援に携わらせていただきました。それから、ごぜん塾。講師をはじめ、たくさんの方々に協力、参加いただきました。地域の片隅で学びの場を生み継続できたことに本当に感謝です。塾長より

造田 覚

「くにたち地域コラボ」という一艘の船に乗り、私の世界は一気にくにたちの街へと広がりました。立ち止まる背中を優しく押され、ここで紡いだ数多の縁、市民公益と地域福祉の学びの糧が、市民活動の輪へと広がり、活動の「法人化」という大きな節目を迎えることができました。この場所に集う皆さんと出逢えて、本当に良かったです。ありがとうございます。

日下 竹彦

家から1分の職場はとても便利でした。足りないものがあればすぐに取りに帰れました。地域コラボの拠点プラムジャムがあったUR富士見台団地も、10年後には建て替えになっているでしょう。その頃このまちはどんな景色になっているのでしょうか。またここに市民活動の拠点が生まれているかもしれないと思うと、少し楽しみになります。

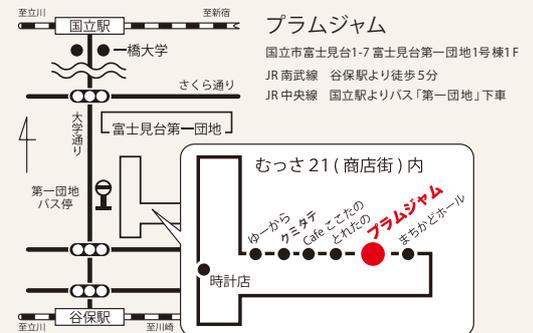
村上 久美



皆さま、大変お世話になりました。

〈正会員〉

- 総合型地域スポーツクラブ くにたちエール
  - 谷保のネオおばあちゃん家
  - 谷保駅北口商店会
  - 国立せいさく所
  - ニッポー設備株式会社
  - ママエステアシスト協会
  - NPO法人 国立子育てティエラ
  - kunitter.com (クニッター)
  - NPO法人 くにたち富士見台人間環境キーステーション
  - 一般社団法人真山舎(さなやまや)
  - 絆の会 (高齢者を支える地域の絆づくりの会)
  - NPO法人くにたち農園の会
  - 国立歩記事業部
  - 株式会社グッドライフ多摩
  - 一般社団法人リング・リンクくにたち
  - NPO法人 地域自給くにたち
  - 国立市ボランティアセンター
- 〈一般会員〉 126団体



くにたち地域コラボ

editor: (株) グッドライフ多摩 / design: EtoS

